

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
 担当課長名：前佛 和秀

事業名	一般国道247号 西知多道路 (東海ジャンクション)		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：愛知県東海市新宝町 至：愛知県東海市東海町				延長	2.0km
事業概要						
<p>一般国道247号西知多道路（東海ジャンクション）は、愛知県東海市新宝町から東海市東海町間に至る延長2.0kmの道路である。</p> <p>西知多道路（東海ジャンクション）の整備により、国道247号の物流の安定性が確保され、自動車産業等、ものづくり産業の円滑な企業活動を支援するとともに、信頼性の高い空港へのアクセス道路の代替性が確保され、交通渋滞の緩和やリニア中央新幹線の開通などによる円滑なモビリティの確保、個性ある地域の形成による交通需要の増加にも対応している。</p>						
H28年度事業化		H26年度 都市計画決定		R元年度用地着手		H30年度工事着手
全体事業費	500億円		事業進捗率 (令和2年3月末時点)	約10%		供用済延長 0.0km
計画交通量	10,700台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年 令和2年
	(事業全体) 1.2	(残事業)/(事業全体) 364/416億円		(残事業)/(事業全体) 490/490億円		
	(残事業) 1.3	事業費：347/398億円 維持管理費：18/18億円		走行時間短縮便益：454/454億円 走行経費減少便益：34/34億円 交通事故減少便益：1.7/1.7億円		
感度分析の結果						
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.1~1.3(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.2~1.5(交通量±10%)                  事業費：B/C=1.1~1.3(事業費±10%) 事業費：B/C=1.2~1.5(事業費±10%)                  事業期間：B/C=1.1~1.2(事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.2~1.4(事業期間±20%)</p>						
事業の効果等						
<p>① 円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。</li> <li>・新幹線駅（JR名古屋駅）へのアクセス向上が見込まれる。</li> <li>・第一種空港（中部国際空港）へのアクセス向上が見込まれる。</li> </ul> <p>② 物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定重要港湾（名古屋港）へのアクセス向上が見込まれる。</li> </ul> <p>③ 都市の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区画整理（東海太田川駅周辺地区）の沿道まちづくりとの連携がある。</li> </ul> <p>④ 国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域高規格道路の位置づけあり</li> <li>・知多地域から日常生活圏の中心都市（名古屋市中心部）へのアクセス向上が見込まれる。</li> </ul> <p>⑤ 個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベント（セントレアを核として陸・海・空のアクセスに優れた環境と最先端の都市機能を備えた次世代型産業拠点の中部臨空都市開発）を支援する。</li> <li>・主要な観光地（めんたいパークとこなめ）へのアクセス向上が期待される。</li> </ul> <p>⑥ 災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次緊急輸送道路（愛知県地域防災計画より）として位置づけがある。</li> <li>・第一次緊急輸送道路（知多半島道路）の代替路線として機能する。</li> </ul> <p>⑦ 地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2排出量削減が見込まれる。</li> </ul>						

⑧ 生活環境の改善・保全

- ・ NO2排出量の削減が見込まれる。
- ・ SPM排出量の削減が見込まれる。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

愛知県・4市から構成される西知多道路推進協議会が早期整備を要望。

知事の意見：

○「対応方針（原案）」に対して異議ありません。

一般国道247号西知多道路は、国際拠点空港の中部国際空港と伊勢湾岸自動車道を直結するとともに、名古屋高速道路を経由してリニア中央新幹線の名古屋駅とを結び、知多半島道路と一体となってダブルネットワークを形成する国土強靱化に資する大変重要な道路です。本事業区間（東海ジャンクション）周辺は、臨海工業地帯の物流交通と名古屋市内へ向かう通過交通が輻輳し、著しい渋滞が発生しており、本道路が整備されることで、渋滞緩和や高速道路へのアクセス性向上により、定時性の確保、物流の効率化が図られます。よって、対応方針（原案）のとおり事業継続し、一日も早く供用されることを求めます。

本県としても、本事業のストック効果が最大限に発揮されるよう、西知多道路 南部区間（日長IC（仮称）～常滑JCT（仮称））の整備を進めてまいります。

なお、事業実施にあたりましては、全体の事業費が大幅に増となっていることから、一層のコスト縮減を図るなど、より効率的な事業推進に努められるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

- ・ 「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 西知多道路（日長IC（仮）～青海IC（仮））が、令和元年度に愛知県にて事業化が決定。
- ・ 愛知県国際展示場（R元年8月）、中部国際空港第2ターミナル整備（R元年9月）等中部臨空都市の開発が進展。
- ・ 中部国際空港の利用者についても年々増加傾向にあり、2019年度では年間1,260万人。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 事業進捗率は約10%（令和2年3月末時点）。用地取得率は約86%（令和2年3月末時点）。
- ・ 改良工事、下部工工事を推進。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 東海ジャンクション（延長2.0km）は、早期開通に向けて整備を推進。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・ 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。